

## 天瀬裕康著『ジュノー記念祭』

著者は、これまで長年にわたって小説エッセイ、脚本、俳句など多方面のジャンルにおいて、精力的に執筆活動を行ってこられた。今回、それらの中の大きなテーマの一つマルセル・ジュノー博士に関して、ジュノー記念祭を中心に、その足跡など、これまでのルポやエッセイなどをともに、一冊にまとめ出版された。

ジュノー博士は終戦の年の九月、原爆投下により廃墟と化した広島に一五トンの医薬品を持ち込み、自ら治療にもあつたスイス人の外科医である。ジュノー記念祭とは、博士の徳を称え一九九〇年、博士の命日のある六月に初めて、平和記念公園内にあるジュノー博士顕彰碑の前で行われた式典で毎年開催されている。天瀬先生は、ジュノー記念祭の開催、継続などジュノー博士顕彰事業に多くの

方々とともに早くから深く、熱心にかかわってこられ、ジュノー研究の第一人者となっておられる。私自身はこれまでジュノー記念祭には出席したことがなく、またさまざまなジュノー博士顕彰事業にもヒロシマ救済の恩人顕彰核廃絶への願いも込めて

評江川政昭



特に参加する機会はなかったが、今回この本を読ませていただき、天瀬先生を始めさまざまな分野の多くの方々、ジュノー博士顕彰事業に携わってこられたこ

とを知り本当に感動を覚えた次第です。

さて、この本を読み終わって思ったことは、ジュノー顕彰碑の建立、ジュノー記念祭などジュノー博士の顕彰事業にこれほどまでに広く、深くかわつた人々の心を動かしたものは何であつたのだろうか。私には次のようなことが感じられた。一つはジュノー博士の実践した敵、味方の区別ない赤十字の博愛の精神、二つ目はノーモアヒロシマという言葉に象徴される核戦争防止の願い、そして三つ目は「広島の人」としてジュノー博士への恩や徳を忘れてはいけないという思いである。事業にかかわった人々の思いは、それぞれ少しずつ違っていたかもしれない。しかし、これら三つの思い、願いはともに大きな大事な願いである。

多くの方々の方々の努力により、このジュノー博士顕彰事業が続いてきたことに感謝しつつ、これからも継承されていくことを切に願うものである。

(溪水社・2190円+税)